

あじろ丸隈連絡先 通信担当  
 細田英理子 細田英理子  
 No.78 ☎ 644-2927

今日のなかみ

例会報告-----1-2	お知らせ-----4
「登園拒否かカ」---6	例会案内-----4
怪傑!ハウスノズバド 和音・不協和音 ---3	優良呆漢法改題に おけるもろもろのこと ---7
全国運営会議報告---5	情報-----8

1985. 6.30 発行

「甘えなのか」「勇気ある行為」なのか

6月例会は朝日新聞「ひととき」欄に相次いで掲載された通の投書、「子連れ就労」をめぐる論争について語りあった。最初に、仕事に対する姿勢、子どもに対する気配り等について安易なケースは考えないこととして話をすすめた。最初の論者 巴さんも「このお母様がどれほど恐縮していらしたのかは判らない。ガーン」と論を進めているように、安易に子連れでやってきたのが、万策つきて子連れでやって来たのかは問わず、子連れで来ることそのものの是非を論じている。日常身のまわりで経験する場合は、母親の姿勢次第で同じ行為が肯定的にも否定的にもなりがち

子連れ就労

について考える

なのだが、この投書をたたき台として子連れ就労の是非を考えるには、安易な姿勢ではないことを前提として考えた方が本質が見え易いと思っただけである。

6月 例会報告

5/31付の巴さんの論理は、仕事に臨む男は男も女も独身も母親も同じ社会人だ、状況を整えて仕事に臨む自覚、公私の区別が重要というもの。5/31付の森原さんもほぼ同じだが、そうした状況を整えることが不可能ならば、自分の現状をふまえてそれに合った仕事をすればいいと付け加えている。お二人の論理は、子連れ就労は「甘え」。「甘え」をふり捨てて男と同じように働くこと

が、女の能力を社会に認めさせ、差別解消につながるというものの方である。

話し合いでは、やはり、男なみに働くことが女の未来を拓くという考え方には批判的な発言が多かった。巴さんは子連れ女と自分が同じ賃金だということが気にいらないのでないか。こうした考え方は、つきつめていけば、職場で産休や育休、育児時間等をとることにも及んでくるのではないか。子連れで、子どもに気や手をとられてよくに解答もせずにいる人が他の人と同額の謝礼を受け取れるものだろうかという発想は、産休や育児時間をとって他の人より少くしか働かなかた人が同じ給料を受けとれるものだろうかという発想につながっていきはしないか。

賃金を受け取るのと受講料を払うのと、全く逆のケースではあるが、数年前、幸いにも1オだ、た救済を預かって下さる方があり、私は児童文学の講座を受講した。しかし、かなり高額な受講料を払って受講している方達ばかりである。預かって下さる方の都合がつかない時は欠席するしかないと思っていたが、3オくらいの女の子を時々連れ

て来る方がいた。そのお母さんも気を遣っていたが、他の受講生も講師もとても好意的だった。中でも50代と覚しい人の、「私もあなた達くらい歳の頃から外に出ていたり...と、つくづく思うんですよ。」という言葉が忘れられない。

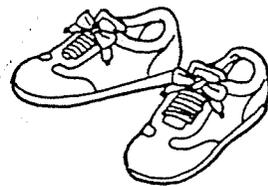
森原さんのいう現状に合った仕事というのは、たとえばどんな仕事が可能なのだろう。こうした自主規制の女の生きる世界を果たして拓げてきたのだろうか。

しかし、当日の出席者の中で唯一の雇う側であるOさんの「まずくいついてくことが大切。そのためにはハンディは少ない方がいい。雇う方はハンディのある人よりない方を雇いたのは自明の理」という発言は現実そのもの。

だが、だからこそ、雇う側、賃金を払う側がたとえ淡々でも受け入れたものを、個性が応援しない手はないと思うのでアルバイトをすまにせよ、勉強すまにせよ、安心して子どもを預けられて、それこそ状況を整えて臨めたらと思っているのは、

誰よりも当の本人に  
ちかいないのだから。

(細谷洋子・記)



8/24・25 合宿 (8月例会にかえて) を行ないます!  
今から予定に入れておいて下さい!

怪慄!

ハウス  
ハズバンド

# 和音・不協和音

加我陽子

御無沙汰しました。毎月通信を楽しみにしてはいますが月一回の例会も会議があったり仕事が続いて一日位休みたいという日であったり仕事・家庭各々の問題に疲れ、例会に出て議論する意欲を失なっていたり等々で年月が過ぎていきます。あごろ会員になって六年。色々な事がありました。が当初と変っていないのは、私が一人の労働者として当りに生きていく(経済的自立という事)と思いつけて必死で働いている事。驚異的に変わったのは夫の家庭参加。掃除・毎朝食の仕度・後片付け・休日の食事支度・ゴミ投げ・フロ掃除・たまの洗濯・トイレ掃除・マーケットの買い出し・子育てへの主体的行動・子供の学童保育所作り等々。まず性別役割分業体制を家庭の中からつきすろうとシ烈な争いを繰返してきた結果やっとここまでたどり着きました。とは言ってもこれはオノロケではありません。我家は相変りず不協和音が鳴りはなしの毎日です。何故か? もうこれが我家の出来る限界だとかやしくも認めざるを得ないからです。共働きとは、え、絶対的に労働時間の短い私や子供達が毎晩9時10時に夫が帰ってからの御食反仕度を待っ

ているわけにはいかなないので。又隣近所の主婦達の奇異の目。“奥さん、よく御主人にごみ投げさせられるわね!”、“朝御飯の仕度をさせてるんだっ!?”これには“いやなことはお互いにとって言ってるの。”、“ご飯仕度もできなくて粗大ゴミになたりダシナが可哀そうだから今からそうならないように助けてあげてるの。”等何気ない穏やかな唇で済むのですが簡単に済まないのが企業というヤツ。共働きが一件もなく専業主婦がささえている夫の会社でこれだけ家事育児をするのは大変な事だと心の片隅では少の諦めと思いやり(?)で認めざるを得ませんがそれでも一段と不協和音が鳴り響くのはやはり私の男社会に対する根強い不信感からでしょうか。中小企業の管理職の夫は今まさに男の花道の絶頂期。「給料を」「名刺を」「地位を」「義理を」「価値を」全て失いたくなく、かわなと自ら宣言し「男社会の為」「資本主義社会の為」まっくらと入道し家事育児をしてもそれは全てを失わない範囲内でやりくりしているだけかもしれません。私はいつと企業と奪って一応、差別と戦う運動を展開している団体の臨時職員だから男女平等と思いきやシキといた男性優位社会でここでも性別差別は全く別問題という状況が可なりけなめでめげないでたつたつと自分の足許をしっかりとさせようと自分自身をなだめなだめ青息吐息で選んでいる毎日です

お知らせ

# 抗議文を出そう!

強姦救援センターから文化庁長官の三浦朱門の「レイプ発言は許せない」ので抗議行動に協力してほしいと呼びかけがありました。さっそく6月例会で話し合いあちりでも抗議文を出すことにしました。抗議先は文化庁と文部大臣と三浦氏(6/19に出した)自宅の3ヶ所です。(資料のほい人は細田まで)

※個人でも団体でも趣旨に賛同の方はどんどん出してほしいです。

文部大臣  
永光殿

## 抗議文

私たちは、以下に列記する発言について、文化庁長官、三浦朱門氏に抗議し、その辞任を要求します。

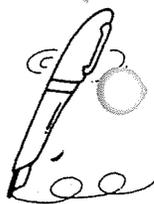
一、シテイランナー一九八四年十二月号における「……なぜ走るか」と質問されると「女性を強姦するのは、紳士として恥ずべきことだが、女性を強姦する体力がないのは、男として恥ずべきことである」などと言っていたものである。……走り、泳ぎ、ダンベルを使って上半身の運動をして、私は何とか今日まで、女性に暴行しうる体力を維持してきたと思う。」という発言。

二、SAY一九八五年五月号における「レイプ犯人が犠牲者としてこういう、貞操についてルーズな思想の持主を襲ってくればよいのです。彼女たちはそういうことにあっても、水溜りで転んだ程度にしか考えないでしょうし、中略—これも自分が魅力的だからこんなことになったのだと、かえってお得意になってくれるかもしれないのです。」という発言。

私たちは、国民の半数である女性を強姦の対象と考え、強姦という犯罪行為を体力のパロメーターとして、容認するような発言をした人物は、我國の文化を代表する文化庁長官にふさわしくないと考えます。

また、女性にとつて強姦は、明らかに肉体のみならず精神への暴力であるから、心身ともに深く傷つきます。女性に対する最も苛酷な人権犯罪である強姦について「貞操観念」のない女性なら襲ってもかまわない、という発言をする人物を、個人の尊厳、両性の平等、暴力の否定を基調とした我國の文化を代表すべき文化庁長官と認めることはできません。

三浦氏本人並びに関係各省庁が、私たちの抗議及び要求を真摯に受け止め、善処されることを期待します。



7月  
例会  
案内

## 「女を装う」読書会

駒尺喜美編 1800円 勁草書房

この本は化粧下着、ハイレール等、私達があたり前だと思ってやっている「女の装い」についてフカーク考察しているとてもおもしろい本です。これを私に話し合いをしたいと思います。

- ・7月13日(土) PM 6:30~9:00
- ・喫茶ミドリ2F (南4西1, TEL 231-7627)
- ・レポート 久徳美

# ★ 運営会議に 行ってきました

報告ともろもろのこと NO3

何とも不思議でしかたがなかったこと。

○ 全国運営会議とは一体何なのだろう。  
午前11時から延々夜の10時まで語合った。それは一体どうなるのだろう。

昨夏の小樽会議の時にも、度々、事務局窮状が話題にのぼった。そして小樽会議の時は、それが主としてお金のなさによるものであるように思われた。しかし、それだけではなかったのではないかと。お金があれは解決できる問題が多いこと、財政が重要な問題であることは今も変わりないが、そのお金のない現実の中で、どうしていくかがちとみえ

こないのである。率直に言えば、あまりに千代さん一人にオンブし過ぎたのではないかと、千代さんを中心とするごく少人数の事務局にオンブし過ぎたのではないかと感じたのである。

女の雑誌、女の運動が次々と生まれは消えていく中で13年目を迎えた〈あじり〉。13年前の時点で創刊したこと。それを13年間続けて来たことの陰に、大変な苦勞があったであろうことは、具体的な事象の一つ一つを知らなくても想像は難くない。千代さんという人は、やはりたいへんな人だと思う。しかし、それは

いつか親を越えていかなければならぬ。先を考いた人の苦勞に感謝し、その足跡に学びつつ、私たちは私たちの代の〈あじり〉を模索しなければならぬのではないかと。そんなことを帰りの帰行機の中で、そして帰って早々の引越し荷作りをしながら、考えていた。財政難は起死回生のヒトと云ふような本を発行することによって乗り越えるしかないのではないかとという提案も、昨年12月発行予定の本誌が遅れに遅れて未だに発行されていない現状では、おそらく難しい。月刊や本誌の編集、それぞれに独立しているとはいえ全国に拠点を抱える運動体の事務局としての役割、しかもその中には情勢に対応する対外的な関わりも入ってくる。加えて、BOCで引き受けているビジネスライクな仕事もある。

月刊193号の中で拠点の役割について話しあったが、もうそんな段階ではないのではないかと。現在、事務局が担っている機能を整理、再編して立て直すしかないのではないかと。そして、その上で全国運営会議をどう位置づけるのか、それゆえに運営会議で予算や活動方針の検討をしてもどうしようもないのではないかと。

次回の運営会議では、地元東京の方々と各地の拠点の方々と共に、この現実の中でどうしていくかを見いだす語りをもちたいと思う。(細谷幸子記)



# Free Space

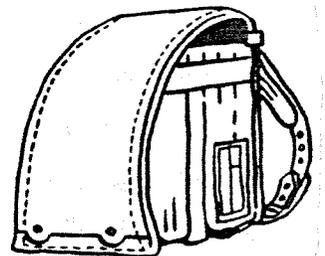


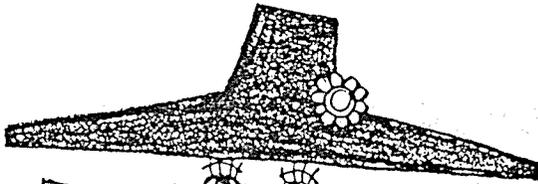
## 「登園(!?)拒否かな」

北谷澄子

登校拒否児とその親達が某日貸MSの一室で自分達の教室を開いた。8才から16才までの小中学生30人が入校。開校理由は拒否児は子供の性格が原因ではなく学校の管理教育にあるとして子供本位の私塾をついた。のびのびとした時間割りで一定カリキュラムはあるがいつ来てもいつ帰ってもよく子供がヤル気になるまで強制をしない“待ちの教育”を目指しているという。で、文部省では「正規の教育の義務を捨てる行為」として批判的云々という新聞記事を目にした。

ところで少し話は変わるが5才になる我息子が現在私立認可保育園に通っている。もともと評判の良い園ではなかつたし保育内容に期待もしていないが、子供は友達同志の付き合いが楽しいと喜んで通っていた。ところが最近園に行くのをいやがるようになった。その原因はどうやらことあるごとにしかられるのが理由らしく、どちらかというとなんかの息子が一夜寝ても保育のせいさを忘れる事ができないというのを放っておけずそれとなく園の様子を拝見!?していた。息子が言っているのも無理もないと思うほど全体的にしかるは、送り迎えで10分程度しか出入りしていない親の前ですらあれだけじかり保育しているならば、目のところでは3倍はかたいだろうと思われた。これしきの事ではなせこれほどしかるのかといふは、大人のつまり保育の都合でしかない。それに生活の場である保育園が教育の場にもりかえられているふしがある。保育以前に人間として完成されない若い女がおこがましくも“教育”などと無い知恵ふりかざすから子供に受け入れられない。思う様に出来ない。結局ヒステリックにしかる。ここでも弱い方へとしわよせかいているわけで、子供の方もたまにはたまたまものではなからう。息子には「しかられるのは元気な事。気にするな。」とってはあるが、記事にあった“管理教育”という一文字が頭をはなれず保育園にまで“管理”の手がのびていると思うと他人事とは思えない深刻さをひしひと感じる今日このごろです。





# 「中絶一北と南の女たち」 をみて

優生保護法  
改悪における  
もろもろのこと No.10

アイルランドの未婚の女性が予期せぬ妊  
娠に悩み苦しむというシーンでこの映画は始  
まった。家族にはもちろん相手にさへ妊婦を  
告げることができない。

性体験のある女なり必ず、望まぬ妊婦に対  
する不安、恐れを、月経が一日二日遅れる、  
ということを経験する。その恐れが現実のもの

となったとき、中絶が非合法下にある国の女たちは、流産するため故意に体を傷  
めつけたり闇中絶したりする。その結果は命を落としたり牢に入れられたり、金あ  
る者は合法下にある外国で中絶する。

男と女があって初めて起こり得る妊娠という事象の結果(産み育てるにしろ中絶  
にしろ)があまりにも女のみを負わされていると思う。そして完璧な避妊法がな  
いのになら中絶を非合法化し、罰しようとするのは男の側である。  
産む産まぬを国が決めるなどもつてのほかである。

米国では中絶した女に対し魔女狩りが行なわれ、日本でも優生保護法改悪の波がジワジワと迫りつつある。上映を期  
に、改悪阻止へ向けて大きな力になりたい。(高橋芳恵記)

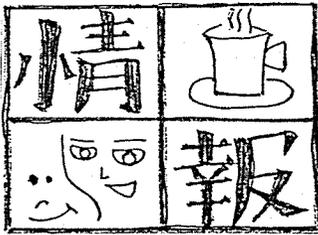
この映画は  
7/20(土)に上映  
されます。詳し  
くは情報欄  
を!

10/5(土)の10周年記念には小沢僚子さんの講演の他  
にショーをやったり、いろいろな出店をだして小物や食べ物  
等の販売をやる予定です。

- こんな出店をだしたり、こんなおもしろいアイデアが  
あるという方連絡を!
- ショー企画グループでは服装の歴史(それはそのまゝそ  
れを着る女と男の歴史でもある)をとりあげる予定で  
す。いいアイデア募集中。口だけ出したい人、手だけだ  
したい人、何でもいから何かやりたいという人連絡を!

次回のショー企画グループの話し合いは7/4(月)13:30 広瀬宅の予定です。  
- 7 -





## ★映画「中絶—北と南の女たち」上映

めざす会(優保阻止連)が久々に活動開始  
是非 見に来て下さい!

- 時 7/20(土) 2:00 と 6:00  
 所 札幌市教育文化会館(北1西13)  
 料金 前売800円. 当日1000円 ひらひら・大丸プレイガイドで発売中  
 主催 札幌優生保護法改悪を阻止し法の徹底をめざす会  
 ※ チケット・資料等をほいらは細田まで

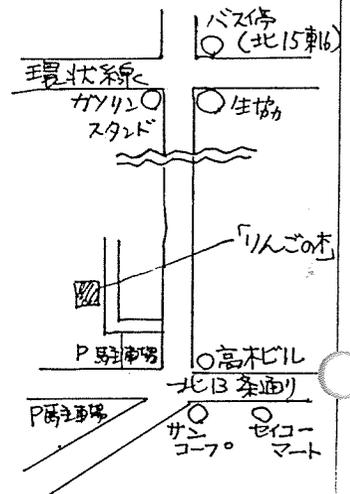
## ★喫茶「りんごの木」開店

めざす会の会員でもあり、「声なき叫び」の上  
映と一緒にやったユカちゃんとのりちゃんが4月  
に喫茶「りんごの木」を開店しました。

木のおいも新しいコワイ喫茶店です。メニュー  
はサービスランチ(コーヒー付)550円他です。  
是非一度いってみて下さい。

- ・ 駐車場あり
- ・ 地下鉄東豊線予定駅のすぐそば
- ・ 北15条駅発市営バスならどれに乗っても可。北15東16で下車

東区北15東14 TEL 704-5447 AM9:00~PM8:00



仕事もあごらもその他の活動も全て  
が集中して忙しかたこの一週間。平  
均睡眠時間4時間にはさすがの私  
もダウン寸前。  
音息吐息でやっと書きあげました。

発行が遅れてゴメンナサイ!

